

愛知県弥富市

トヨタカローラ名古屋株式会社

ロコモ チャレンジ！推進協議会

**愛知県弥富市、トヨタカローラ名古屋株式会社が協働で
外出機会が減るシニアの健康生活支援として送迎付き買い物支援サービスの実証実験を開始。
ロコモ チャレンジ！協議会が乗車中のタブレットを通じた健康支援コンテンツで協力。**

愛知県弥富市（市長：安藤正明）、トヨタカローラ名古屋株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：後藤善和、以下「トヨタカローラ名古屋」）は、外出機会が減るシニアへの健康生活支援として、車両でお買い物先まで送迎している間に、移動中の車内タブレット動画により健康増進を行う「ささえあいセンター買い物支援サービス」を開発しました。それにともない、11月9日より、「弥富市ささえあいセンター※」生活支援サービスの一環として、本サービスの実証に向けた試行運転を開始いたします。なお、人と地域の移動機能の支援を目的とした本施策には、人間の移動機能低下を警鐘し、その予防施策を啓発するロコモ チャレンジ！推進協議会が協力を行います。

外出機会が減るシニアに、送迎付き買い物支援×乗車中のタブレットを通じた健康支援を提供

弥富市では、少子高齢化の進行を踏まえた住み続けられる街づくりに取り組んでおり、地域住民の移動拡大における健康増進と地域活性化がテーマとなっております。また、トヨタカローラ名古屋では、高齢化社会を迎えるにあたり、より魅力ある地域社会の実現に向けて、地域の方々の困りごとに寄り添うサービス提供をしていきたいと考えております。こうした背景から、弥富市とトヨタカローラ名古屋は共に「ささえあいセンター買い物支援サービス」の開発に取り組んでいます。なお、本件はトヨタモビリティ基金※の採択事業として、実証実験開始から本格運営期まで計2年間に渡り、トヨタカローラ名古屋が運営主体である弥富市の活動資金を支援いたします。

「ささえあいセンター買い物支援サービス」では、弥富市の運営する住民参加型生活支援である「弥富市ささえあいセンター」の利用会員を対象に自宅と買い物先間の送迎と買い物中のサポートを行います。送迎には、トヨタカローラ名古屋が自社の試乗車から無償リースで提供する2台の車両を用います（リース期間は5年で更新）。移動中は、株式会社博報堂が開発プロデュースした車内タブレット端末による情報配信システムにて利用者に資するヘルスケア情報を配信します。配信されるロコモ予防情報に関する動画については、ロコモ チャレンジ！推進協議会※が提供します。

今回のロコモ チャレンジ！推進協議会と連携した行政の送迎付き買い物支援サービスは全国でも初めての取組みであり、弥富市では今後もトヨタカローラ名古屋の提供車両を活用し、高齢者の健康増進の取組みを推進していきます。

■本プレスリリースの問い合わせ先

弥富市 健康福祉部 介護高齢課 0567-65-1111（担当 藤井）

弥富市 市民生活部 市民協働課 0567-65-1111（担当 安井）

■買い物支援サービスの問い合わせ先

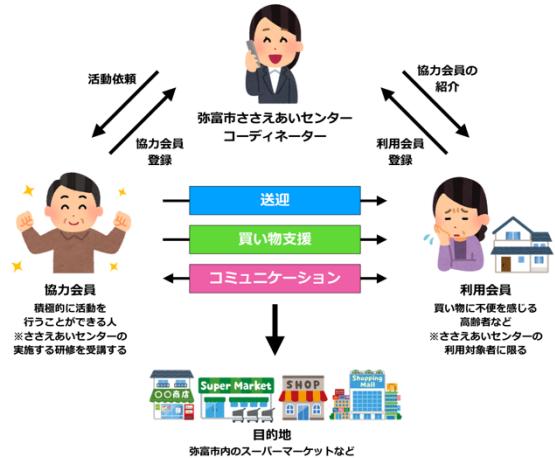
弥富市ささえあいセンター 0567-43-4165

受付：月曜日～金曜日（土・日・祝日・年末年始除く）午前8時30分～午後5時00分

■ 「ささえあいセンター買い物支援サービス」の特徴

① お買い物に関する困りごとの支援

自宅からお買い物場所への送迎に留まらず、買い物中の付き添いや、自宅内への荷物の運び込みなど、高齢者や障がい者が抱える買い物の困りごとを支援します。今回提供する新サービスは、「弥富市ささえあいセンター」の生活支援サービスの一環として取り組む新たなサービスであり、利用者の買い物先へのモビリティサービスとヘルスケアサービスをプラスしたものとなります。



② 車内タブレット動画による、ヘルスケア情報配信

車内での移動時間を活用し、利用者の健康に資するヘルスケア情報を配信します。配信基盤は株式会社博報堂が開発プロデュースし、様々な情報の配信を予定しています。車両にはタブレット端末を搭載し、最大約30分の移動の隙間時間でヘルスケアを中心とした動画コンテンツの視聴が可能。ヘルスケア動画は、「ロコモ チャレンジ！」推進協議会が開発した「ロコトレ（ロコモーショントレーニング）を実践できる映像」や「ロコモ対策に効果的なレシピ紹介」などの動画コンテンツを配信することにより、本サービスは初めてモビリティサービスにおけるロコモ啓発を導入することになります。今後、弥富市では、今回のロコモ啓発をきっかけに、地域の医療事業者と連携したヘルスケアコンテンツや商業事業者などとも連携したお出かけ催事コンテンツなど拡充していく予定です。



※画像は提供イメージです

③ 支援サービス車両の紹介

プリウス PHV（愛称：「きんちゃん GO!!」）とシエンタ（愛称：「ぶんちゃん GO!!」）の2台を使用します。プリウス PHV には、災害時給電機能があり、この車両に蓄電された電力は、災害時に住民へ生活電源を供給する防災インフラとして活用することができます。また、トヨタモビリティ基金を通じて EV 充電基を弥富市総合福祉センターに1台設置します。



【ご案内】

「きんちゃん GO!!」の給電展示イベントを海南こどもの国秋まつりで開催！

日時： 10月31日～11月1日 10:00～15:00

場所： 海南こどもの国 秋まつり会場にて

内容： 「プリウス PHV(きんちゃん GO!!)」の給電機能を使い、スマホの充電体験や、
展示してある金魚の水槽のエアポンプを稼働実演し、災害時の給電機能を紹介します。

■各代表者のコメント

・愛知県弥富市 市長 安藤 正明

このたびの新たなサービスの導入は、特に介護を必要とする高齢の方の買い物に係る課題を解決していくうえで、大変有効なサービスであると考えております。弥富市にとっても、市民の皆様にとっても新たな取組みとなるサービスであります。このたびご協力いただいておりますパートナー各様と共に、移動と健康の活性化に向けて精一杯取り組んでまいりたいと思います。

・トヨタカローラ名古屋株式会社 代表取締役社長 後藤 善和

昨年、安藤市長様とご縁があり、弥富市で「買い物支援サービス」の取り組みを行うこととなりました。コロナ禍で、企業や地域社会で少子高齢化の実感がより一層増したと同時に、進化したITなどの技術が活かされていないことも強く認識しました。少子高齢化社会の課題対応の一つとして、今回の買い物支援サービスを通して、進化した小型モビリティを、地域の皆さんの中での活用していくと良いかと一緒に考えながらトライしていきたいと思います。また、今回提供させて頂くプリウス PHV の給電機能もいかし、移動による地域経済の活性化にとどまらず安全安心な地域社会づくりにも、貢献して参りたいと思います。

・ロコモ チャレンジ！推進協議会 委員長 大江 隆史

人間が地球に誕生して以来、人間は『動く』ことで、身体的、精神的な健康を保てるようになってきました。ロコモティブシンドromeは、移動機能の低下により、自分が思うように動くことができなくなることを言います。今回、地域の移動における支援施策に、人間本来の移動機能支援情報を連携・関連させることは、重要かつ、本質的な移動支援になると考えられます。『移動するため』だけではなく『自分が実現したいことを実現するため』という

視点で人・地域を支えていくことに連携・協力させていただけるのは本会の求めるところでもあります。自治体、企業、医療それぞれの専門的視点・得意領域の掛け合わせにより、世界に先駆けた移動支援を実現できるよう、今後より一層の連携を強化していきたいと思います。

■実証実験の概要

内容：弥富市ささえあいセンター買い物支援サービス実証に向けた試行運転

期間：2020年11月9日(月)～本格運行までの間

場所：愛知県弥富市内

利用対象者：弥富市ささえあいセンター利用会員

運営主体：弥富市ささえあいセンター

■協力組織について

・「弥富市ささえあいセンター」について

弥富市民で利用会員（生活の援助を受けたい人）と協力会員（生活の援助ができる人）が助け合う、住民参加型生活支援サービス組織です。利用会員（介護保険申請中および利用中の又は、障害手帳を持つ人および申請中の）、生活の援助を受けたい人）とその援助ができる協力会員を、弥富市職員であるコーディネーターがマッチングして活動をおこないます。

利用料は、1時間あたり700円（土日祝・時間外800円）。

・トヨタモビリティ基金について

2014年8月の設立以来、豊かなモビリティ社会の実現とモビリティ格差の解消に貢献することを目的に、タイやベトナム、インド、ブラジルでの交通手段の多様化や、日本の様々な移動課題解決に向けたプロジェクトのほか、障がい者向けの補装具開発を支援するアイデアコンテストの実施、水素研究の助成、人工知能による交通流最適化の共同研究など、世界のモビリティ分野における課題に取り組んでいます。今後も、トヨタの技術・安全・環境に関する専門知識を活用しながら、大学や政府、NPOや調査研究機関等と連携し、都市部の交通課題の解消、パーソナル・モビリティ活用の拡大、次世代モビリティ開発に資する研究などの取り組みをすすめています。

・ロコモ チャレンジ！推進協議会について

ロコモ チャレンジ！推進協議会とは、公益社団法人日本整形外科学会と株式会社博報堂が立ち上げたロコモ啓発予防を推進する団体です。超高齢社会の運動器の「立つ」「歩く」といった機能（移動機能）への予防や対策活動を行っています。コロナ禍で移動する機会が減少する等、高齢者の運動機会の減少、移動能力の低下については緊急の課題となっています。本モビリティサービス事業における連携を通じて、人が本来希求している「移動できる・移動する能力」に医療の視点から協力。本件をきっかけとして、今後他の自治体への貢献も展望しています。

■本プレスリリースの問い合わせ先

弥富市 健康福祉部 介護高齢課 0567-65-1111（担当 藤井）

弥富市 市民生活部 市民協働課 0567-65-1111（担当 安井）

■買い物支援サービスの問い合わせ先

弥富市ささえあいセンター 0567-43-4165

受付：月曜日～金曜日（土・日・祝日・年末年始除く）午前8時30分～午後5時00分

以上